

朝礼 校長講話（３月１２日）

まず、１年生の人たちに報告があります。先週行われた卒業式で、みんなの先輩である２年生の人たちが、式場はもちろん教室やさまざまなところをしっかりと準備してくれ、そして、式の中でも立派に在校生代表として３年生を送り出してくれました。そのことを報告します。そうやって一つの学年が卒業して二つの学年しかないこの体育館は、見た感じはがらんと寂しい気もしますが、先ほど多くの部活動の大会での活躍を表彰しましたが、しっかりと１年生も２年生も成長し伝統を受け継いでくれています。すばらしいと思います。

さて、昨日は３月１１日でした。テレビや新聞、インターネットなどで「東日本大震災から７年」という関係の特集が多く組まれていました。見た人も多いと思いますが、そんな中で、目に留まったことがあります。新聞に載っていた内容ですが、震災で妹を亡くしたお姉さんが、ずっと、

「妹の分まで生きて」

と言われて、それがとても重かったと語っていたことです。私たちは、なにげなくそんな言葉をかけてしまいがちですが、それが本人にとってはとってもつらいことだということを知りました。その女性、２０歳になったそうです。その女性がある日、あるお坊さんからかけられた、

「自分のために生きればいいんですよ」

という言葉ですごく気持ちが軽くなったそうです。

３年生がいなくなったからといって、その分を１年生・２年生の子たちにがんばれとは言いません。まずは「今、自分がすべきこと」をしっかりと行ってください。そして、心や時間に余裕がある人は、周りの人の分までがんばればいいと思います。例えば、試合などで、同じコートやグラウンドに立っている仲間がいます。ハンドボールなら７人、サッカーなら１１人、野球なら９人で試合をします。その中の誰かが調子が悪い時は「その子の分まで」という気持ちになり大きな声を出したり、たくさん動き回ったりします。それができる人は、ぜひそうしてください。でも、それをするためには、まず自分のことをしっかりとできるようにすることが大切だと思います。今はちょうど一年の締めくくりの時期です。残された時間は一週間ほどしかありませんが、まずそれをやりとげることががんばってください。